

グリーン四国

四国森林管理局



高知市丸ノ内1丁目3-30
TEL 088-821-2000 四国山の日
FAX 088-821-4834
ホームページアドレス <http://www.shikoku.kokuyurin.go.jp>
電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp

No.1064 2008年11月号

「育てよう 緑あふれる 日本の未来」 をテーマに第32回全国育樹祭を松山市で開催



昭和天皇、香淳皇后
お手植えのスギをお手
入れされる皇太子殿下
(写真提供・愛媛県)

【詳細は二頁に掲載】



「グリーン四国」に使われている紙は、日本の森林を
育てるために間伐材を積極的に使用しています。



環境に配慮した植物性大豆油インキを
使用しています。

愛媛県松山市で全国育樹祭

豊かな緑を次世代へ

〈指導普及課〉



「育てよう 緑あふれる 日本
の未来」をテーマに、第十二回全国育樹祭が十月二十五日～二十六日、皇太子殿下をお迎えし、愛媛県松山市において開催されました。二十五日は、県有林の久谷



励ましの言葉を述べられる内藤林野庁長官

ふれあい林において、皇太子殿下によるお手入れ行事が行われ、昭和四十一年の「第七回全国植樹祭」で昭和天皇、香淳皇后がお手植えされたスギの根元に肥料をまかれまして、また、併催行事として、愛媛県生涯学習センターにおいて、「全国緑の少年団活動発表会」が行われ、内藤林野庁長官が励ましの言葉を述べられました。

二十六日は、愛媛県武道館において、石破農林水産大臣、内藤長官、中山局長、川上計画部長、狩野愛媛森林管理署長をはじめ全国から林業関係者など約三千三百人が参加し、全国育樹祭式典が行われました。式典は、谷国土緑化推進機構副理事長が開会あいさつをした後、江田参議院議長と加戸愛媛県知事が主催者あいさつを行い、引き続き皇太子殿下が「森林は、美しく豊

かな国づくりの基礎であり、限らない恩恵を私たちに与えてくれます。緑を守り育て、それを育んでできた技術や文化を次の世代にしっかりと引き継いでいくことは、私たちに課せられた大きな役割と考えます。」とお言葉を述べられました。

その後、緑化功労者などの表彰があり、最後に佐々木国土緑化推進機構理事長が「森林の有する多面的機能が今後とも維持され、十分発揮されるよう育樹活動をさらに積極的に推進します。」などの大会宣言を読み上げ、式典は終わりました。

全国育樹祭は、春の全国植樹祭と並ぶ緑化推進行事で、来年は長崎県で開催されます。また、愛媛県武道館に隣接する松山中央公園において、森林・環境製品等の展示・販売及び愛媛県内市町特産品の

販売が行われました。愛媛森林管理署もブースを設置し、森林の働きなどのパネル展示、パンフレットの配布、木球プ



木球プールでの遊びの体験の様子

ールでの遊び体験及び木工製作キットの販売・製作体験を行いました。子どもたちに特に好評だったのは、木球プールでの遊び体験で、最初は物珍しそうで遊んでいましたが、最後ははしゃいで遊んでいました。また、木工製作キットの販売・製作体験では、一つ作っては、また別のを作り、最後には全部のセットを購入し親御さんを困らせていました。

さらに、二十六日には、記

念行事として、今治市において、石原林野庁研究・保全課技術開発推進室長、森 森林整備部長をはじめ約六千人が参加し、「森林・林業・環境機械展示実演会」が行われ、全国の林業機械メーカー等が最新鋭の機材を展示し、あわせて実演が行われました。また、全国育樹祭式典を終えられた内藤長官、中山局長も視察に訪れ、内藤長官はメーカー担当者に熱心に質問されていました。



メーカー担当者から説明を受ける内藤長官

四国森林管理局から

三名が発表

第五九回日本森林学会

関西支部等合同大会開催

(高知市)

〈指導普及課〉

第五九回日本森林学会関西支部日本森林技術協会関西・四国支部連合会合同大会が、十月十七日、十八日の二日間、高知市で開催されました。

一日目は、木構造振興(株)、西村専務取締役から「最新の木材需給の動向と地域材有効活用への提言」と題しての特別講演があり、外材の輸入状況とその対応、日本の木材需給の現状など様々な角度から課題を取り上げ講演されました。

その後、住友林業フォレストサービス(株)の石村課長から「変化するニーズに対応した森林経営のあり方」、高知県の小原千



高屋敷 所長



鷹野森林技術専門官

一フから「木材生産の効率化・低コスト化に向けた取組みについて」の話題提供を受けてシンポジウム(コーディネーター高知大学川田教授)が行われ、テーマである「変貌する木材需要に地域材はどう応えるか?」に向け地域材需要の具体的な取組み事例を交え意見が交わされました。

二日目は、造林や育樹・保護など十分野での研究発表が行われました。四国森林管理局からは、森林技術センターの高屋敷所長が、「地球温暖化傾向に伴うヤナセスギの成長について」、同センター鷹野森林技術専門官が、「天然林におけるスギ天然更新技



武内自然再生指導官

術の開発ーヤナセスギ天然更新試験地におけるスギ稚樹の成立経過(第二報)ー、四万七千森林環境保全ふれあいセンターの武内自然再生指導官が、「滑床山国有林におけるシカ食害地の植生回復ー裸地化したササ生地の再生についてー」、発表しました。

なお、当局から本学会で女性職員が発表したのは、武内自然再生指導官が初めてです。

今回、十の分野にプラスして、広葉樹林化セッションも開催され、広葉樹林化・針広混交林化をテーマに、「技術開発試験をと

おした針広混交林化推進に向けた課題」と題して、森林技術センター高屋敷所長の発表を含めて九課題が発表されました。

発表後、参加者から発表内容について頂いた質問や取組み課題等については、今後の業務に生かしていく考えです。

続いて、駐車場に場所を移し、森林内の土壌と介良潮見台小学校の運動場の土を比較した森林の水源かん養機能の実験を

水の実験、丸太切り

体験に大歓声

小学生への森林環境教育

〈指導普及課〉

十月三日、四国森林管理局において、介良潮見台小学校五年生一〇五名を対象に森林環境

教育を実施しました。

小学校から森林の役割を深く知りたいとの要望があり、はじめに、二階大会議室において、森林の果たす役割や木材利用の意義などについてプロジェクトを使って説明しました。子どもたちは、熱心にメモをとりながら聞き入り、時折、質問を投げかけると、元氣よく答えていました。中でも、「森林の果たす役割の一部をお金に換算したらいくらでしょう。」との質問に、自分たちが想像した以上に大きな金額が現れると、あちらこちらから驚きの声が上がりました。森林の恩恵を実感したようでした。



土壌の違いによる比較実験の様子

「今日の記念に、森林の緑色で四国森林管理局って書く。」と、感想を述べた子どももいました。

樹木の観察では、針葉樹、広葉樹の違いや紅葉の仕組みを説明し、局周辺の樹木について実際に匂いをかいだり、葉を手にしながら感触を確かめていました。子どもたちにとって、木は身近にありながら知らないことも多いらしく、「樹木の勉強が今日一番印象に残りました。」と感想も聞かれました。

最後に、笑顔で「ありがとうございました。」と言いなながら、大きく手を振って帰っていく様子に、こちらも充実感を味わうことができました。